



銚子市ゼロカーボンビジョン -概要版-



銚子市は、2050年までにCO₂などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする目標を掲げています。
ゼロカーボンの推進をきっかけに、さらに魅力あるまちづくりを目指します。



1. ゼロカーボンビジョンとは

背景と目的

- 気候変動問題の解決に向けて、世界のCO₂排出量を2050年までに実質ゼロにする必要があります。
- 銚子市の豊かな暮らしと環境を未来につなげるため、2050年ゼロカーボンまでの道筋を描く本ビジョンを策定します。

基本方針

「豊かな自然環境を活かし、持続可能な銚子を未来につなぐ」

計画期間

- 2050年までとし、社会情勢や進捗の状況に応じて適宜見直しを行います。

ゼロカーボンとは？

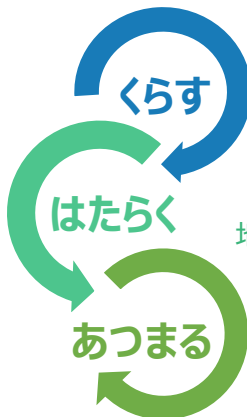
二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林や都市緑化などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることです。



2. ゼロカーボンがつくる未来



ゼロカーボンへの転換は「銚子創生の機会」とも言えます。



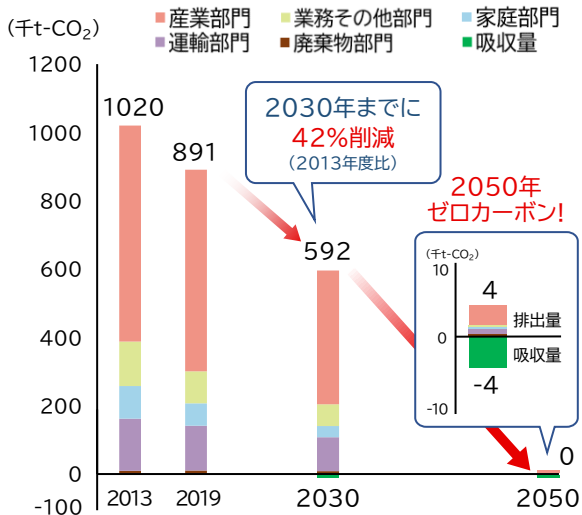
おだやかな気候を活かした住宅で地域の再エネ電力を使いながら安心して快適な生活をおくる未来

洋上風力発電や新技術の導入が地域産業に活力をもたらし、地産地消の再エネ電力でつくられた「銚子産」の価値が高まる未来

再エネのまちとして認知され、銚子の豊かな自然・食・文化を求めて人があつまる未来



3. ゼロカーボン達成に向けたシナリオ



このまま対策なしに2050年を迎えると…

CO₂排出量(推定)はあまり減りません。

2019年	2050年
891千t-CO ₂	780千t-CO ₂

2050年ゼロカーボンに向けて、今から対策を始める必要があります。

このシナリオを実現するためには…



- STEP1** エネルギー消費量を減らす(省エネ)
- STEP2** 地域に再エネ電源を増やし、再エネ電力を使う(創エネ)
- STEP3** 化石燃料の使用を減らし、電化を進める(エネルギーシフト)

再エネ導入目標

2030年	2020年導入実績の2倍
2050年	2050年のエネルギー消費量(電力)に相当する導入量



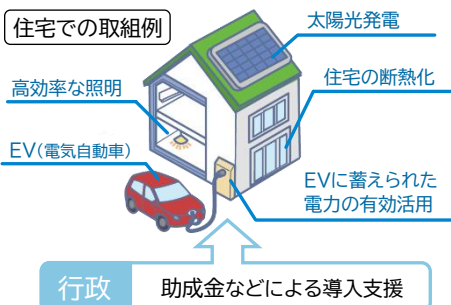
4. 家庭からはじめるゼロカーボン

ゼロカーボンへの転換が、安心して快適な暮らしにつながります。

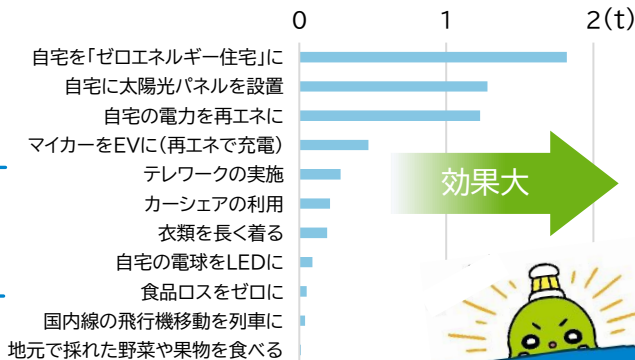
ゼロカーボンのためにはエネルギーを効率よく使うことが重要です。

メリット

- 光熱費の削減
- 室内の快適性の向上
- 災害時への備えなど



以下の取組を1年間続けた場合の1人あたりのCO₂削減量は？



5. 2050年ゼロカーボンに向けた継続的な取組例

1 再エネで経済をプラスにする・災害に強くする

公共施設・住宅・事業所への太陽光発電・蓄電池の導入
陸上風力発電設備の更新などによる発電量増加
災害時の電力供給体制の整備など

※ 銚子市では、風力発電設備の設置について遵守事項を定めています。
生活環境や自然環境に配慮した、再エネの適切な導入を進めます。

2 エネルギーを低コストで効率よく使う

公共施設・住宅・事業所の断熱・省エネ性能の向上
ZEH・ZEB(年間エネルギー収支ゼロを目指した住宅・建物)の推進など

3 脱炭素できれいな空気と安心を保つ

CO₂排出量が少なく利用しやすい公共交通の整備
EV/PHEV/FCVの導入、EVカーシェアリングの整備、緑化の推進など

4 洋上風力と連携して銚子創生を実現する

洋上風力で発電された電気の地域活用方策の検討
洋上風力発電メンテナンスの人材育成、漁業との共生
洋上風力発電事業の情報発信、新たな観光資源としての活用など

5 オール銚子で未来につなぐ

銚子電力株式会社と連携した再エネの地産地消システムの構築
地域の再エネ・需要家・EV・蓄電池をつないだマイクログリッドの構築
卒FIT電力の地域内活用、再エネ電力の他地域への売電
地域金融機関によるグリーンファイナンスの推進など

行政・市民・民間事業者がそれぞれできることを実施するとともに
協働でゼロカーボンシティの実現を目指します。

2050年の銚子市の姿(イメージ)

